

桜縁

特集●地域の顔

フロントランナー●ビジネス支援で地域社会に貢献
NPO法人XOクラスター理事長 吉田 丹治

特別寄稿●小児の肥満について
医学部助教授 小児科 岡田 知雄

連載●袖すりあうも
北海道／レストランはまなす
福島県／福住旅館

連載●動物・ペットQ&A (社)千葉県獣医師会 岩田 顕三

連載●われら日大ファミリー 竹内 寛さん一家

支部・部会紹介／学部祭・イベント情報／校友会ニュース



湯島天神例大祭に参加する法学部お祭り研究会会長 神田圭太郎さん(写真中央)とメンバーたち

CONTENTS

特集●

地域の顔3

- テレビ信州・稲葉陽子さん
- 九州朝日放送・小林徹夫さん
- 北海道放送・木村比查子さん
- 中京テレビ・本多小百合さん
- 山形テレビ・宮本賢一さん
- 広島テレビ・馬場のぶえさん

フロントランナー

- 吉田 丹治さん (NPO法人XOクラスター理事長)
- ビジネス支援で地域社会に貢献10

特別寄稿

- 岡田 知雄先生 (医学部助教授 小児科)
- 小児の肥満について 12

連載・袖すりあうも

- お店紹介
- 北海道/レストランはまなす 14
- お宿紹介
- 福島県/福住旅館15

連載●動物・ペットQ&A

- (社)千葉県獣医師会 岩田 穎三先生16

連載●われら日大ファミリー

- 竹内 寛さん一家17
- 支部・部会紹介 (生物資源科学部校友会、福井県支部)18
- 学部祭・イベント情報20
- 校友会ニュース24
- 旬の店・話題のスポット30
- 書籍紹介31
- 大学からのお知らせ32
- お知らせ・掲示板34

「桜縁」の由来

日本大学(桜)と校友の皆さんとの縁を深めるだけでなく、校友の皆さん同士の縁も大切にしたいコミュニケーション誌を目指して「桜縁」(おうえん)と名付けました。また、校友の皆さんに母校の教育・研究活動や後輩たちの学術・文化・スポーツ活動を「おうえん」(応援)してもらいたいという意味も込められています。

本学は総合大学とはいえ、キャンパスも離れているし、なかなか相互交流が取りにくかったのですが、最近は、総合学術情報センターの通信衛星を使った遠隔授業や、単位互換制度もでき、学部間交流が深まりつつあります。校友の皆さんも卒業してから学部間交流ができるように、この会報は、年齢層はできるだけ幅広く、学部・学科の枠を超えて一人でも多くの校友の皆さんを紹介していきたいと思っています。

IT(情報技術)が発達し、インターネットのホームページや電子メールでの情報伝達が増えていますが、この会報「桜縁」を持って、紹介する校友のお店などをふらっと訪ねて、自分も日大の卒業生だと話しかけてみるのも良いのではないのでしょうか。きっと日本大学の話で盛り上がり、新しい縁が生まれるはず。この会報をどんどん活用して、桜の縁が広がっていくことを願っています。



表紙の写真

学生の学術・研究・スポーツ活動を応援する目的で、本誌の表紙を学生のために広く開放し、活動発表の場にしたいと考えました。

湯島天神例大祭に参加する法学部お祭り研究会会長 神田圭太郎さん(写真中央)
お祭り研究会は、現在部員18名で活動しています。主な活動は、お祭りについて研究することだと思われがちですが、実際はお祭りのある各地に出かけ、地元の人と一緒に担ぎ手としてお祭りに参加することです。そんな熱いお祭り男やお祭り女が集まった研究会です。また、そんな仲間たちと一緒に汗を流し、祭りが終わった後のお酒の味は格別です。お祭り研究会は、法学部公認サークルとして20年の歴史があり、OBの方々とも交流が盛んで、先輩たちの地元の祭りにもよく呼ばれます。今回の湯島天神例大祭も、初代会長の紹介で参加しています。こういった年上の人たちとの交流や、お祭りを通じて地域住民とふれ合うことで、自分自身をすいぶん成長させたと思います。粋な日本の心を大切にして、残り少なくなった祭りのシーズンを楽しもうと思います。



地域の顔

地方局で働くアナウンサー、キャスターたち

現代社会において、テレビは私たちの生活になくはならないメディアとなっている。なかでも地域に根ざした情報を配信する地方局は、その地域の「情報ステーション」的存在と言えるだろう。今回の特集では、そんな地方局でアナウンサーやキャスターとして活躍する校友を紹介。地域情報の最先端にいる彼らの仕事や実生活に迫る。



大学4年の夏休み、タイで テレビ番組の制作に参加した ことが、私の運命を変えたんです。

●TSBテレビ信州 アナウンサー

稲葉 陽子さん

建築学科を出て、どうしてアナウンサーに?とよく聞かれます。私自身も大学4年の夏休みまで、自分がアナウンサーになるとは思っていませんでした。住宅メーカーの内定をもらい、最後の夏休みを意味のあることに使いたいと思ってインターネットを見ていたとき、目に入ったのが、タイのテレビ番組制作会社の日本人ボランティア募集だったんです。面白そうだと思って応募し、現地へ行ってみると当時のタイは日本ブーム。女子高生のルーズソックスにまで注目が集まっていた、日本語に対する関心も高かったんですね。番組の内容は、タイ人向けに初歩的な日本語を教えるというもので、少し日本語が話せるタイ人の男性と一緒に私も出演したんですが、そのとき現場で経験したチームワークの素晴らしさやひとつのものをつくり上げたという充実感、それに伝えたいメッセージを自分で話す喜びが忘れられなくなって…。

アナウンサーの勉強を始めたのが大学4年の9月。とても無理だと思っていたら、幸い福島放送に就職が決まりました。福島放送の本社は大学時代に4年間を過ごした郡山にあって、土地や人に対する愛着も強かっただけに、取材でいろいろな方とお話するのが楽しかったですね。2年間のアナウンサー経験と1年間の記者経験を通じ、私は渡された原稿を読むより、外に出て自分でレポートするほうが好きなんだということもわかってきました。印象に残っているのは、テレビ朝日の「30人31脚」という番組の地方予選を数ヵ月間にわたって取材したときのこと。小学生が30人、二人三脚の要領で足首を結び、ゴールまでのスピードを競うんですが、全国大会出場を目指して一生懸命に走る子どもたちの姿に心を打たれました。雪の多い福島は全国大会では不利なんですが、そのときは上位に入賞できて、自分のことのようにうれしかったです。

4月からはテレビ信州に移り、女性向けの情報エンターテインメント「街まち☆ウォッチ」と健康番組「奥様はホームドクター」を担当しています。「街まち☆ウォッチ」は、長野の人気スポットや新しいお店などを



●プロフィール
稲葉 陽子 (平成14年工学部建築学科卒業)

(いなば・ようこ)

昭和54年栃木県生まれ。小学生の頃、宇都宮市が主催する歩道橋のアイデア募集コンテストに入賞。自分のアイデアが形をとる過程を目のあたりにして感動をおぼえ、もともと理数系が得意だったことから建築家を志望して本学へ。大学3年の夏にはケンブリッジ大での夏期研修にも参加。後にタイでテレビ番組の制作に携わった経験から志望をアナウンサーに変更し、卒業後は福島放送に就職。3年間の勤務を経て今年の4月からはテレビ信州に活躍の舞台を移す。

紹介する新番組。長野に暮らすのは初めてですが、これからじっくり長野の良さを見つけて、好きになりたいですね。

アナウンサーになって3年と数ヵ月。正直言って、本当にこの仕事で良かったのか悩むこともあります。実は先日、長野出身の設計士の方にインタビューする機会があったのですが、現在の仕事を選んだ理由を尋ねたとき、その方が「90歳までできる仕事だから」とおっしゃったんですよ。痛いところを突かれたような気がして…。でも、私はアナウンサーの仕事で何かをつかむまでは絶対にやめたくない。局からも、やりたいことはどんどん提案してほしいと言われてますし、地方ならではの町おこしなど、取材してみたい題材もたくさんあります。目標は、自分で取材して、原稿も書けるアナウンサー。まだまだ1歩を踏み出したばかりです。

ホークス勝利の実況をした 夜は、興奮して眠れなくなる こともあります。

●KBC九州朝日放送 アナウンサー

小林 徹夫さん

春から秋にかけてのプロ野球シーズン、福岡の人々はソフトバンクホークスの試合結果に一喜一憂する毎日を過ごします。そんな地元のみなさんに、テレビやラジオを通じてゲームの実況をお届けするのが私の仕事です。思い起こせば5年前の7月。念願叶って、初めてプロ野球の実況席に座ったその日、当時ホークスの4番打者だった小久保選手が、レフトスタンドにホームランを打ったんです。その瞬間のことは今でも鮮明に覚えています。とにかく「ああ、ここ(KBC九州朝日放送)に来てよかったなあ」と、心の底から実感したんですよ。以来、私もすっかりホークスファンに。やはりホークスが勝つとうれしいですね。特に自分が実況する試合で勝ってくれた日は、興奮して眠れなくなっちゃうくらい気分が高揚します。

地元の放送局として、ホークスを応援しながらの中継になります。あくまでもスポーツ中継ですから、ホークスの情報を中心しつつも、相手チームのファンが耳にすることも念頭におきつつ、その辺の微妙なさじ加減を常に考えながら進行しているんです。特にラジオでの仕事の場合は、リスナーが耳からの情報だけで試合のイメージを膨らませることができるような実況が求められます。細かい試合展開の説明はもちろん、タイミングを見計らいながら、相手チームの情報や解説者のコメントを的確に挟み込んでいかなければなりません。そのためには野球のゲーム展開のセオリーを理解しておくが必要になってくるのですが、これがなかなか大変でした。具体的な実況の技術というものは、練習を積めば上達します。でも、プロ野球という、ある意味で特殊なスポーツのゲーム展開の理論は、実際に試合を見たり検証したりするなかから体得していくものです。それを理解しないまま実況に臨んでしまうと、ちぐはぐなコメントをしてしまったり、解説者とかみ合わなくなったりしてしまうんです。そんな事態を極力避けるために、試合前の選手への事前取材や情報収集は欠かせません。もちろん、それだけでは埋めることの



●プロフィール
小林 徹夫 (平成7年法学部新聞学科卒業)

(こばやし・てつお)

昭和46年千葉県生まれ。在学中に法学部の先輩にあたるTBSのアナウンサー、柴田秀一氏のインタビュー記事を読み、アナウンサーという職業に興味を持つ。卒業後、TBC東北放送に入社。サッカーなどのスポーツ中継を担当。その後、平成13年に現在の勤務先であるKBC九州朝日放送へ。プロ野球中継や福岡国際マラソン中継などの実況を担当するスポーツアナウンサーとして活躍中。在学中にはワーキングホリデーで、1年間カナダに滞在した経験もある。

できない「経験の重み」というものも非常に重要な要素だと思っています。

私などはまだまだ駆け出しですが、なかには30年以上スポーツ中継を続けておられる大先輩もいらっしゃいます。私もそんな方々のように、自分なりのスタイルを確立させて、「味のある実況」ができるアナウンサーを目指したいですね。すべてがぶっつけ本番のスポーツ中継は、苦勞も多いし緊張の連続なのですが、すごく楽しい仕事でもあります。ときどき、パズルのパーツがピシッとハマるように試合展開が読め、なおかつ声の調子もバッチリだったりすると、本当に気分がいいんです。今までの苦勞なんかいっぺんに吹き飛びます。そんな瞬間がある限り、スポーツ実況はこれからもずっと私の仕事の中心軸であり続けるでしょうね。

「晴天」=「いいお天気」 とは決して言わないのが 気象予報士なんです。

●HBC北海道放送 ウェザーキャスター・気象予報士

木村 比查子さん

午前4時。誰もいないHBCウェザーセンターの電源を入れることから私の仕事は始まります。それから、その日のあらゆる気象データを確認・分析し、放送のための予報を立て、原稿を作成します。1回目のお天気レポートは午前6時30分オンエアのラジオ。冬場ともなれば、外はまだ暗く、実際の空を見ながら天候の判断をすることができません。ですから早朝の天気予報は特に慎重に行う必要があるんです。それから正午まで、ラジオ3本、テレビ2本の天気予報をこなします。この生活が月曜日から金曜日まで。はっきり言って、緊張の連続です。

好きな仕事ですから、肉体的には辛くはないのですが、毎回放送＝ぶっつけ本番で気象情報を伝えなければならないプレッシャーは日々感じています。特に早朝はスタジオには私ひとり。すべての責任を負って仕事をしているわけですから、ちょっとしたミスも許されません。もちろん自分で立てた予報が外れてしまうのも怖いですが、ひとくちに北海道といっても、地域によって気候の特徴は様々です。気象予報を立てる時は、地域ごとにその地形や特徴を考慮する必要もあり、本当に難しいんです。そのため、以前は曖昧な表現でレポートをしてしまったこともありました。でも、はっきりしない天気予報なんてあまり役に立ちませんよね。ですから最近では、外れることを恐れずに、できるだけ具体的な情報をお伝えするようにしています。自分の解析に自信を持って予報することが、視聴者の方々に対する誠意だと思えます。

そんな私にとって、視聴者の方々から「いつも見えますよ」と声を掛けられることが最大の喜びです。みなさんの生活に密着し、実際に役に立つことのお天気情報ですから。そのためには、言葉の使い方ひとつにも気を配らなければなりません。たとえば、私たちは日常的に「晴れ」のことを「いいお天気」と表現しますよね。でも天気予報では、この言葉は禁句なんです。なぜなら雨が降るのを待ち



●プロフィール

木村 比查子 (平成8年法学部法律学科卒業)

(きむら・ひさこ)

昭和48年青森県生まれ。高校卒業後、祖父の出身大学でもある本学へ進学。卒業後は日本エアシステムに客室乗務員として勤務。仕事のかたわら気象予報士の勉強を始める。資格取得後、株式会社ウェザーニューズへ入社。各放送局に配信する気象情報の原稿を作成する仕事からスタートし、やがてお天気キャスターに。昨年10月に同社を退社しフリーとなる。現在はHBC北海道放送にて「朝ピタTV」(火～金曜日放送)など2本のテレビと3本のラジオ番組に出演中。

望んでいる農家の方々にとっては、決して「晴れ」が「いいお天気」ではないからです。ちょっと考えれば当たり前のことですが、そんな配慮の積み重ねも重要な仕事の一部だと思っています。

実は私、前職は旅客機の客室乗務員だったんです。フライトのときに窓から見える雲の形に興味を持ち、軽い気持ちで気象の勉強を始めたのですが、すっかりのめり込んでしまって、気象予報士を目指すことを決意。仕事も辞めて、国家資格を取ったんです。ちょっと無謀にも思える決断だったのですが、迷いはまったくありませんでした。好きなことを仕事にできて、本当にラッキーだと思っています。今後は、天気予報だけにとどまらず、もっといろんなことに挑戦してみたいです。実際に取材や調査を行って、天気が生活に与える影響などをレポートできるようになればいいですね。

報道は終わりのない仕事。 その中でも、人とのつながりを 大切にしていきたいですね。

●CTV中京テレビ キャスター

本多 小百合さん

中京テレビの報道番組「ニュースプラス1」のメインキャスターを務めるようになって3年。中京テレビは愛知、岐阜、三重の東海3県が放送エリアですが、ご存じのように今年は特に名古屋が元気なんです。2月の中部国際空港セントレア開港に続き、3月には待ちに待った「愛・地球博」が開幕。2年ほど前から会場予定地に赴いて話をうかがったり、工事現場に足を運んだり…。取材を通じて様々な方の思いにふれ、苦労を目のあたりにしてただけに、連日の盛況を見るにつけ感慨深いものがあります。地球博の開催期間は9月25日まで。もちろん閉幕後も、地元への経済効果はどうだったのか、跡地はどうなるのかなど、番組でしっかりフォローしていきたいですね。事件を一時的に大きく扱うだけではなく、その前後を丹念に追っていくのが報道の使命。そういう意味では終わりのない仕事なんです。

私がアナウンサーを志すことになったきっかけは、大学3年の頃に偶然見た日本テレビの「24時間テレビ」。大病を患いながら最後まで再起への希望を失わなかった広島カープのピッチャー、津田恒美投手の話が紹介されているのを見て、言葉にならないほど感動しました。テレビは人にこんな感動を与えることができる…。そう思ったらどうしてもアナウンサーになりたくて、国際関係学部で授業を受けながらテレビ局主催のアナウンススクールに参加したり、アナウンサー専門学校に通ったりして夢を実現させました。

私が常に心がけているのは、人と人とのつながりを大切にすること、そして、大きなニュースに隠れて見過ごされがちな小さなできごとへの感受性を失わないことです。たとえば去年、自転車で日本一周をしていた青年が、たまたま台風で被害を受けた町を通りかかり、その町でボランティア活動を始めたというニュースを報道しました。彼は、息子さんや亡くなった目の不自由な女性の手助けをしていたんですが、その女性が彼の手を握り、「わあ、あったかい」と言っているのを聞いて、私も思わず涙がこみあげてしまいました。



●プロフィール

本多 小百合 (平成11年国際関係学部国際文化学科卒業)

(ほんだ・さゆり)

昭和51年静岡県生まれ。三島北高校から本学へ。卒業後、平成11年中京テレビ入社。3年前より報道番組「ニュースプラス1」のメインキャスターを務め、地元では「さゆりん」の愛称で親しまれる。中京テレビ公式サイト中の「本多小百合のフロムスタジオ」に連載しているフォト日記も人気。念願の「24時間テレビ」出演も果たし、今年7月には同社の海外研修で欧米の放送局を視察。一層のステップアップを目指している。趣味は料理。母直伝のレシピに挑戦中。

中京テレビは小さな局ですから、取材にも自分で出向くことが多いのですが、そんなとき出会った方々とは、放送が終わった後も人間としてのお付き合いを続けるようにしています。たとえば、障害者施設への取材で知り合った目の不自由な子どもたちに、童話を朗読したテープを送ったり…。人とのつながりという意味では、大学時代にアルバイトで家庭教師をしていたとき、貴重な経験をしました。教えていた子が不登校になり、そのうち家から1歩も出なくなると、それでも私は少し話をしてくれるので、毎日のように通っていたことがあるんです。立ち直ってくれたときは本当にうれしかった。その子は通信教育で高校卒業の資格を取り、今は社会福祉士になるためにがんばっています。どんなに科学が発達しても、大切なのは人と人との心のつながり。そこから生まれる感動を伝えられるキャスターになりたいですね。

生放送中に発生した 宮城県沖地震で、キャスター としての役割を実感しました。

●YTS山形テレビ キャスター

宮本 賢一さん

日大卒業後、アナウンサーとして山形に来て6年半。いろんなことを経験しました。地方局のアナウンサーは、人数が少ないこともあり、多様な仕事をこなす必要があります。現在の私のメインの仕事は、月曜から金曜まで毎日放送される情報番組のキャスターですが、そのほかにも、お昼のニュースやスポーツ中継など、様々な番組を担当します。もちろんそういった表に出る仕事以外にも、番組の企画や取材、ときには編集作業にまで関わることもあります。

なかでも強烈に印象に残っている出来事は、なんといっても2年前の宮城県沖地震です。実はあの地震が発生したとき、まさに生放送の真っ最中だったんです。ゲストの方をお迎えして、スタジオでお話をうかがっていたちょうどそのとき、グラッ!と大きな揺れが起こりました。出演者もスタッフも思わず凍りついてしまうくらいの大揺れで、頭の真上の照明が今にも落ちてきそうなくらい激しくぶつかり合っているんです。あの時は、本当に肝を冷やしましたね。それでもカメラは回っています。なんとか平静を保って、視聴者のみなさんに冷静に行動するように呼びかけたんですが、自分自身が相当に動揺していましたね。仕方がないことですが、生放送中はあまり周囲の情報が入ってきません。そんな事態になったとしても、自分の置かれた状況を即座に判断し、できる限り適切な情報を伝えていくことが、キャスターには求められていると実感しました。

子どもの頃から、不思議と人前で発表したりすることが多かった私は、ごく自然な流れでアナウンサーを志望するようになりました。それで日大の芸術学部放送学科のアナウンスコースに入学したんです。在学中はアナウンスの勉強のほかに、遊園地やサッカー場などで声を出すアルバイトも経験しました。そのなかで人前に出る度胸や人との付き合い方などを勉強できたと思っています。それでもアナウンサーになりたての頃は、いろいろと苦勞もありました。私は東京出身なので、まずは冬の雪の多さに驚き、それから方言にも苦



●プロフィール

宮本 賢一 (平成11年芸術学部放送学科卒業)

(みやもと・けんいち)

昭和49年東京都生まれ。本学卒業後、YTS山形テレビにアナウンサーとして入社。1年間報道記者を兼任した後、2年目より「SUPER Jチャンネル YTSゴジダス」のメインキャスターに。山形県内の情報を伝える、まさに「地域の顔」。そのほか高校野球などのスポーツ中継の実況、YTSニュースなども担当する。ストレス解消法は「温泉につかること」。いろんな種類の露天風呂が楽しめる、米沢の新高湯温泉が目下のところ一番のお気に入りとか。

しみましたね。相手が親しみを込めて言葉をかけてくれているのに、意味が理解できなくて、ただ笑顔を返すことしかできなかったり…。山形は、同じ県内でも地方によってまったく言葉が異なるので、それに慣れるのに結構時間がかかるんです。正直言って、今でも完全に理解できているわけではありませんが、軽い挨拶を意味する「どうもーす!」という言葉くらいなら自然に出てくるようになりました。

意外に思われるかもしれませんが、実は私は人と話すのはあまり得意ではないので、自分の適性を疑ったこともあったんです。でも今は情報の最先端にいることを心から楽しんでます。まだ誰も知らない情報の現場に行って、それを伝えることができる喜びは何ものにも代えられません。これからも山形の新しい情報を細かく拾って行って、どんどん地元の皆さんに発信していきたいですね。

育児と仕事の両立は想像していた以上に大変ですが、娘の笑顔が一番のエネルギーです。

●HTV広島テレビ アナウンサー

馬場 のぶえさん

小さい頃からの夢だったアナウンサーになるため、広島にやってきて今年で9年目。昨年の7月18日に娘の心晴(こはる)が生まれ、この4月に産休を終えて職場復帰したばかり。私にとっては古巣とも言える番組「テレビ宣言」に1年ぶりで帰ってきました。

最近は、社会的にも女性が仕事と子育てを両立させることのできる環境をつくろうという動きがありますよね。その点、広島テレビには2人のお子さんを育てながら仕事を続けておられる女性の先輩もいて、非常に恵まれた環境だと思います。私が妊娠したときも、産休をとって職場に戻るのには自然なことだという雰囲気があって、スタッフもあたたかく見守ってくれました。それに、娘が誕生したときには視聴者の方からも100通を超えるおめでとメールやファックスをいただき、本当に感謝の気持ちでいっぱいです。

私がキャスターを務めている「テレビ宣言」は、生活者の視点から最新のニュースや生活情報を提供する番組で、毎週月曜から金曜まで、夕方4時50分からの時間帯に生放送でお届けしています。「生活に密着した暮らしへの提言」が番組のコンセプトなので、これからは子を持つ母親として、以前とは違った視点からさまざまな情報をお伝えしたいですね。実際、子育てや教育の話題には、これまで以上に踏み込んだ関心が持てるようになりました。以前は一般論としてしか理解できなかった延長保育や待機児童の問題も、自分が保育園に子どもを預けている今では、身近で切実なテーマなんです。番組へのお便りを見ても、最近は気のせいか、子育てをしているお母さんからのメッセージが増えたような気がします。

私はまだまだ駆け出しの母親で、育児と仕事の両立について語れるほどの経験もないんですが、想像していた以上に大変だというのが実感ですね。娘は4月から保育園に通っているんですが、入園2日目に早速熱を出したりして、最初のうちは休んでばかり。母乳で育てたせいもミルクもなかなか飲んでくれず、復帰後の1ヵ月間は私も夫もほとんど



●プロフィール

馬場 のぶえ (平成9年芸術学部放送学科卒業)

(ばば・のぶえ)

本名は小田麻江。昭和50年福井県生まれ。地元の藤島高校からアナウンサーを志望して本学へ。卒業後は広島テレビに入社。「柏村武昭のテレビ宣言」アシスタントを経て、リニューアル後の「テレビ宣言」でキャスターを務める。平成15年4月に同期入社的小田慎二氏と職場結婚。16年7月に長女・心晴(こはる)ちゃんを出産。産休を経て今年4月より「テレビ宣言」に復帰。広島テレビの公式サイトで「のぶえのドタバタいくじにつき」を好評連載中。

睡眠がとれない状態でした。でも、今はようやく落ち着いて、ミルクもゴクゴク、コップで飲んでます。昨日はついに、つかまり立ちができるようになったんですよ。

仕事との両立も、最近ようやく少しペースがつかめてきたかな、という感じ。同じ職場で編集を担当している夫にも助けられています。仲間内の飲み会があるときも、それがいい番組をつくる上で重要なコミュニケーションだと知っていて、「子どもは僕がみるから」と言ってくれるのありがたいですね。何より、どんなに疲れていても、娘の笑顔を見るとエネルギーが湧いてきます。子どもを持つ30歳のアナウンサーとして、これからは若い頃とは違う「自分」を出していきたい。背伸びせず、気負わず、同じ立場の女性たちに「ともにがんばりましょう」という気持ちを伝えていきたいですね。

現役時代の経験を活かした ビジネス支援で地域社会に貢献したい

「自分たちが培ってきたビジネススキルを後進の育成に役立てたい」。そんな思いでオムロンの退職者たちが結集。XOクラスターというNPO法人を立ち上げた。ビジネスNPOの先駆的存在でもあるこのボランティア集団の発起人でもあり、現理事長でもある吉田丹治さんに、その具体的な活動内容をうかがってみた。

ビジネス支援のためのプロ集団、それがXOクラスター

——XOクラスターとはどのような団体なのでしょう？

私たちはオムロンという会社の定年退職者の集団です。会社の第一線からは退いたものの、まだまだ社会貢献への意欲を充分にもっている同志40人ほどで、平成12年1月に設立し、同年8月にNPO法人(非営利民間組織)としての認証を取得しました。その後会員は順調に増え続け、今では110人をを超えるほどに大きくなりました。

団体名の由来は、Xは「超える、外に出る」こと、Oは「オムロン」の頭文字、クラスターは「ブドウの房」を意味しており、「オムロンから飛び出した人たちが、豊かな房を実らせよう」という目標を掲げたものです。つまり、会員それぞれがオムロン在職中に培った知識や技術を活かして、ベンチャー・ビジネスや中小企業の育成に役立て、京都の街づくりに貢献することが私たちの大きな目的なのです。当然のことですが、会員には技術者が多いので、パソコンやハイテクに精通した「ITシルバー集団」とも言われています。

——具体的にはどのような活動をなさっているのですか？



XOクラスターの事務所が入っている
京都リサーチパーク(KRP)



NPO特定非営利活動法人
XOクラスター 理事長

吉田 丹治 (よしだ・あきはる)
(昭和33年工学部(現理工学部)電気工学科卒業)

昭和11年栃木県生まれ。在学中は電気・電子関係を中心に研究。卒業後は立石電気(現オムロン)株式会社入社。産業・社会業務自動化電子制御システムなど、さまざまな事業開発を手掛け、昭和46年以降は健康医療機器事業を立ち上げる。平成3年、オムロン退社後は複数企業の顧問として技術系経営戦略等を支援。現在はXOクラスター理事長のほか、京都シニアベンチャークラブ連合会会長や京都ビジネスミッションリサーチ代表などを兼務。多忙な毎日を送る。

現在最も力を入れているのは、ビジネス支援活動ですね。経営の基本的な知識をもった会員が、地元の中小企業やベンチャー企業などに出向いて、経営や技術のノウハウを指導するといった活動を行っています。企業経営には、1.市場ニーズ探求、対応力、2.販売・魅力市場獲得力、3.研究開発・設計力、4.生産力、5.コスト力、6.連携力、7.資金力という、高お客様満足度経営上重要な「7つ道具」が必要とされます。しかし、大企業の「下請け」的な存在であることが多かった現在の中小企業には、その要素が揃っていないことが多いのです。その状況を打開していくことが、私たちの大きなテーマだと言えるでしょう。もちろん、あまり手取り足取り指導しすぎても、今度は逆にその企業の自立を阻害してしまうことにもなるので、どのくらいの支援を行うのかといった判断も必要になりますね。

そのほかにも、行政主催のIT講習会や経営実務講座への講師派遣やベンチャー企業の新商品開発支援、中小企業の技術力や市場性の調査なども行っています。これらの活動の際には、相手に私たちのノウハウがきちんと残るような支援を心がけています。

横のつながりや行政とのつながりも構築

また、XOクラスターだけでビジネス支援を完結させるのではなく、横のつながりを構築して、さらに幅広いニーズに応えるために、「京都シニアベンチャークラブ連合会(KSVU)」というものも結成しました。これは京都市役所や島津製作所、堀場製作所、積水化学などの有名企業のOBたちのクラブの集合体で、相互の

連携を深め、各グループ間の活動の活性化を図りながら、人材育成などの人的支援活動や自らのベンチャー企業化にむけた取り組みを活発に行っています。実は私はXOクラスターの理事長であると同時に、この会長も兼任しているのです。毎日バタバタと忙しく動き回っているんです。

——最近では行政サイドもビジネス支援に積極的ですね。

そもそもXOクラスター設立は、京都市が平成10年から行っている「地域プラットフォーム事業」の実務アドバイザーにオムロン役員が起用されたことがきっかけでもあるんです。この事業は、京都市が「(財)京都高度技術研究所(ASTEM)」を通じて、中小企業や起業家に対し技術支援や資金調達などの支援を行うものですが、それはまさに、私たちがイメージしているビジネス支援活動と非常にマッチするものでした。XOクラスター設立メンバーの多くが、その事業にコーディネーターやアドバイザーとして参加していたため、ビジネス志向のNPOという発想が生まれたのです。また、実際に企業をサポートする際には、補助金の問題や法的な手続きなどで、行政との関係性は非常に重要なものとなります。ですから私たちは、行政ともがっちり連携を組み、ベンチャー育成や中小企業の経営改善のための行政施策のバックアップを行っているのです。

オムロンでの現役時代に培ったノウハウを活かす

——オムロンでの経験は現在の活動にどう活かされていますか？

私が入社した頃のオムロン(当時は立石電気)は、まだそれほど大きな会社ではありませんでした。ところが高度経済成長やバブル景気のなかで、日本は急速な経済発展を遂げ、1980年代には製造業では世界NO.1の存在になりました。当然、それになって会社も大きくなっていきます。それはいいことなのですが、同時に非常に厳しい国際市場競争の修羅場に立たされることでもあったんです。

私は商品開発の責任者として、数々の商品開発に携わってきました。競争力のある商品を生み出すには、世界中のマーケットを調査する必要があります。最先端の商品を研究・分析することはもちろんですが、その商品よりも2歩も3歩も先んじたものを開発しなければ意味がありません。これは一朝一夕でできることではなく、高度なスキルや人脈、経験によって蓄積されたノウハウが

なくては成功しないのです。

私がオムロンという会社のなかで長年働き、一応の成果をあげることができたのは、厳しい競争のなかで、先に挙げた「7つ道具」を身に付けていくことができたからです。そしてその経験があるからこそ、経営革新や海外展開などを目指している企業を支援できるのだと思っています。今でもオムロンで培ったノウハウを「古臭い」ものにならないよう、最新技術の情報などはこまめにチェックしていますね。そうでなければ、適切な支援はできませんから。

これからの産業界の課題は「人材の育成」

——今後もっとも取り組むべき課題とはなんですか？

やはり自然尊厳の超一流な技術立国としての若者の教育だと思います。そう考えると、大学教育の質が非常に重要になってきますね。ただでさえ少子化が進んでいる現実の前では、大学といえども安穏としてはられません。企業同様、魅力ある内容でなければ存続できないのです。日本ではまだまだ浸透していませんが、欧米先進国では大学と企業の共同研究が非常に盛んです。そこには、資金の問題だけでなく、社会の現実の大いに役に立つ研究を推進することによって、優秀な人材も育っていくという大きなメリットもあります。

私たちはこのような視点に立って、教育機関への支援に積極的に取り組んでいます。具体的には、大学からカリキュラム開発の依頼を受けたり、小学校への支援構想を市教育委員会と検討したりといった内容です。また、このような産学連携の窓口として、京都工芸繊維大学と協同で調査研究事業会社である「ソキトリサーチ」を立ち上げました。これからはこの会社も通じて、大学の研究を社会に還元させるような活動にも力を注いでいきたいですね。



午前中は自宅で情報整理をすませ、午後は打ち合わせなどで外出することが多いという吉田さん。KRPの中心にて

小児の肥満、生活習慣病における最近の知見



医学部助教授 小児科
岡田 知雄 (おかだ・ともお)

【略歴】昭和51年日本大学医学部卒業。昭和51年日本大学医学部小児科医師(現在に至る)。昭和60~平成6年まで独協医科大学大越谷病院小児科兼任講師。平成6年板橋区医師会病院小児科部長。

【専門分野】小児循環器病学、小児予防心臓病学、小児栄養学。

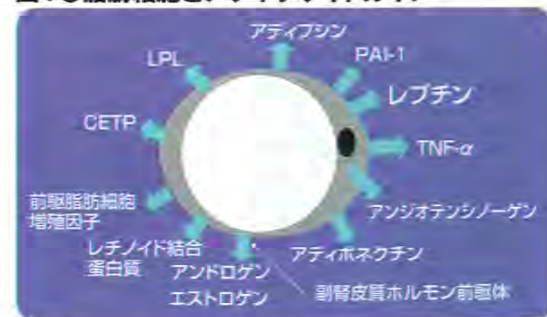
【役職】小児脂質研究会幹事、日本小児保健学会評議員、日本肥満学会評議員、城北肥満研究会幹事、日本小児科学会代議員、日本動脈硬化学会評議員。

【研究テーマ】1.小児期からの生活習慣病予防に関する研究。2.小児期からの高脂血症対策に関する研究。3.小児肥満の研究。

【代表的著書】学校医マニュアル(文光堂)、病例に学ぶ高脂血症治療(共著:メディカルレビュー社)、高脂血症の治療と生活指導(小児内科)、「アポ蛋白」(小児科診療Q&A)、Management and Treatment of Childhood Hyperlipidemia、これからの健康づくり基礎から実践までのガイドブック第2節ライフステージ別の健康づくり第1章成長期の健康づくり(財団法人東京都健康推進財団東京都健康づくり推進センター)など。

【受賞歴】東京都医師会賞(平成7年2月)、第103回日本小児科学会総会優秀演題賞(平成12年4月)。

図1●脂肪細胞とアディポサイトカイン



■はじめに

肥満は、現代における生活習慣病のもっとも大きな原因となっています。肥満は、現在、WHOによる統計では全世界において13億人と推定されています。おそらく、人類の出現以来、これほどに多くの肥満が生活習慣病という健康問題と関連するとは、かつて想像もしなかったであろうと思われま

す。肥満に関する知識は、近年における分子生物学や遺伝学の進歩などにより急激に変貌を遂げてきた領域です。その始まりは1994年フリードマンらによる、ob/obマウス脂肪細胞から、レプチンが分泌されていることが発見されてからだといえま

す。すなわち、それまでは脂肪細胞とは単なるエネルギーの貯蔵としての機能しかないとされていたのですが、実は生命維持の基本的な機能である食欲中枢やエネルギー代謝などの制御に深く関わっている、一種のシグナリング(生体情報の伝達と制御)を司っていることがわかったのです。脂肪細胞では、その後、生活習慣病と関連する、アディポサイトカインと呼ばれる多数の生理活性物質(図1)が同定され、ヒト肥満における脂肪細胞の役割が次第に明らかにされてきました。

■肥満とは

肥満とは、からだの脂肪が過剰に蓄積した状態をさします。脂肪細胞の数は、正常の成熟した大人では、350億個と推測されています。しかし、一個一個の脂肪細胞におけるエネルギー貯蔵が臨界に達すると、新たな脂肪細胞が出現し、最高で正常の10倍までに増加することが知られています。一旦増加した脂肪細胞は、もはや減ることはありません。このような肥満を、増殖性肥満と呼びますが、極めて高度な肥満で難治性です。

ヒトのからだの仕組みにおいて食べ物から吸収したエネルギーは余剰となれば、必ず脂肪細胞に貯蔵しようというように

できているのですが、これは常に飢餓にさらされていたであろう人類の祖先にとっては、極めて合目的な仕組みであったのです。また、安静時のエネルギー消費に関する点でも過酷な環境にあった人種では、消費をできるだけ減らそうとするような仕組みができあがったのではないかと想像されます。実際に、北米のアリゾナに住むピマインディアンには、居留地にて脂肪の多い肉食が与えられるようになってから、肥満や糖尿病が増加することになったのですが、この原因が、実は脂肪細胞のエネルギー消費に関する働きのあるβ3受容体において、それを低下させるような遺伝子変異を有する割合が圧倒的に多いことが知られています。ピマインディアンのゲノムを調べると、日本人やアジア人と相同するモンゴル系のものであることが知られており、かつてピマインディアンもベーリング海峡を渡って北米に定住したのではないかとさえいわれています。

■小児の肥満から

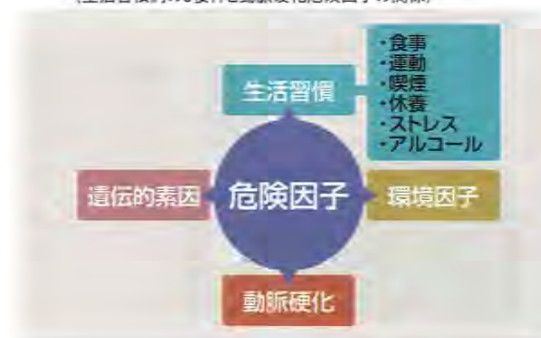
最近注目されている小児の肥満に関する学説に、adiposity rebound(体脂肪の反跳現象)という事実が世界で確認されつつあります。これは、Body Mass Index(体重(kg)を身長(m)の二乗で割った数値、略してBMI)とよばれる体格指標の経年的な経過においてみられるものですが、通常は5歳以降にBMIのもっとも低い点があらわれた後、増加に転じるのです。この反跳現象が5歳未満の早い時期に出現するグループは、その後加齢の経過として、小児期から成人期にかけてもっともBMIの高いグループに一致すること、そして成人期の生活習慣病の代表である糖尿病の罹病率が有意に高いことが報告されたのです。この反跳現象のなかでも、パーカーの仮説といわれるものは、子宮内発育が悪く、出生体重が小さい程、将来、高血圧、糖尿病、心血管疾患になりやすいといわれています。すなわち、子宮内環境における胎児の発育が

悪くて小さく生まれた子は、その後かえって肥満と生活習慣病になりやすいと考えられるのです。BMIが本当に乳幼児の体脂肪を表わすとすれば、人類の発生における脂肪細胞とエネルギー代謝の関係が、こうした胎内環境においてもゲノムを介して反映している可能性を想像させるのです。ともかく、母胎栄養の重要性を再認識すべきでしょう。

■そして生活習慣病へ

環境、遺伝そして生活習慣という三つの要因から生活習慣病が形成されるのです(図2)。こどもの時期から、その成立過程が、上述した内容からお分かりいただけたかと思います。人生におけるそれぞれのライフステージに合った正しい生活習慣すなわち、食事、運動、休養、ストレスはどの世代にも共通ですし、青年期以降は特に禁煙、適度の飲酒を守れるようにしたいものです。これからは、家族で一緒に取り組むべき健康問題それが、肥満および生活習慣病という、ライフスタイルにかかわる現代人の誰にも共通した問題なのです。

図2●生活習慣病と動脈硬化の関係
(生活習慣病の3要件と動脈硬化危険因子の関係)



OB・OGが経営している

お 店 紹 介

北海道/レストランはまなす

谷口 修さん

(昭和52年芸術学部放送学科卒業)

フレッシュチーズもラム肉も生産地のど真ん中。
白糠のおいしさが丸ごと味わえるレストラン

搾りたての牛乳でつくったフレッシュチーズも

釧路空港から車で約20分。白糠漁港からほど近く、国道38号線沿いに建つ「レストランはまなす」は、一見よくあるファミリーレストラン風の店構え。だが、店内に足を踏み入れた客は、メニューを開いて和・洋・中120種類におよぶ料理の数にまず驚き、出された料理を口に運んだとき、最高の感動を味わうことになる。

「何でもある店は味が今ひとつ、というイメージがあるでしょう。だからこそ、全部おいしいものを出してお客様を感動させた。季節限定メニューを加えると、料理数は全部で150種類くらいになりますが、そのひとつひとつにこだわりがあります」

谷口さんは「はまなす」の2代目。和食の料理人だった父親から和食の基礎を学び、その後、札幌市内のイタリアンレストランと中華料理店で修業を積んでマルチな腕前を身につけた。

メニューの中でとりわけ目を引くのは「モzzarellaチーズのト

●プロフィール
谷口 修

(たにくち・おさむ)

昭和29年北海道生まれ。地元の高校から本学へ。卒業後は3年間、北海道放送でラジオ番組のADを務める。その後、札幌市内のイタリアンレストランで3年、中華料理店で1年半の修業を積み、家業へ。「ただ自分の好きなものをつくるのではなく、お客様の立場で考える。放送学科で学んだことが今役に立っています」

マトスバゲティ」や「ラム肉のスープカレー」など、地元産のフレッシュな食材を使った料理の数々。搾りたての牛乳でつくったモzzarellaはコクのあるまろやかな味わいが絶妙。フレッシュラムのジューシーな肉質は、挽肉で食べても違いが分かるほどだ。

地元の食材を使って、「今」しか食べられないものを

「フレッシュチーズは、酪恵舎というチーズ工房から、ラム肉は茶路めん羊牧場から仕入れています。どちらも地元の畜産大学を出た若い人が一生懸命やっていて、しかも、身びいきでなく本当に質の高いものをつくっている。こちらも負けられない、おいしい料理をつくって応援していきたいですね」

もともと農業や漁業が盛んだったこの地に、酪農・畜産という新たな魅力が加わった今、店内のボードに手書きされる「季節限定の新作メニュー」は増える一方。

ハンティングのシーズンには、えぞ鹿を使ったメニューも。

「地元の食材の中でも今しか食べられない旬のものを大切にしたい。それが生産地に店を構える料理人の使命だと思います」

モzzarellaチーズのトマトスバゲティ
スープカレー(ラム挽肉入り)

OB・OGが経営している

お 宿 紹 介

福島県/飯坂温泉 福住旅館

紺野 正敏さん

(昭和48年経済学部経済学科卒業)

心づくしの接客でリピーター率60パーセント。
川のほとりのお宿は、食いしん坊も大満足

「旅館は儲けてはいけない」が祖父の口癖

秋保、鳴子とともに「奥州三名湯」のひとつに数えられる飯坂温泉。昭和6年創業の福住旅館は、温泉街のほぼ中央に位置し、摺上川に面した絶好のロケーション。

「福住旅館としては私で3代目ですが、先祖は江戸時代から「油屋」という屋号で旅館を営んでいたそうです。でも、私自身は小学生の頃から剣道一筋。大学にも剣道をやるために入ったようなもので(笑)、旅館経営のことは全く考えていませんでした。ところが姉の結婚が決まると、そうも言っていられなくなって…」

卒業後1年間、都内の旅行関連会社で働き、その後家業を継いだ。最初は戸惑うばかり。「ひとつひとつが勉強」の毎日だった。

「私が小さい頃、祖父はよく『旅館は儲けてはいけない』と言っていました。儲けが出たら、それはお客様のために使うという考え方なんです。今は時代が違いますが、お客様にごまかしのな

●プロフィール
紺野 正敏

(こんの・まさとし)

昭和25年福島県生まれ。地元の飯坂高校から本学へ。在学時には剣道部に活躍。卒業後はまず長島温泉の東京事務所、その後フジ文化観光に勤務し、昭和48年から家業に入る。お嬢様ならびにご子息も本学の出身。昨年卒業されたご子息(日本通運に就職)も在学時は剣道部に所属、キャプテンを務められた。

い態度で接し、心からくつろいでいただくという基本は変わりません」

好評の250gステーキは女性客でもペロリ

「お客様本位」の姿勢は、さまざまな形で今日まで受け継がれている。20年ほど前、飯坂温泉で最初に全室フカフカの羽毛ふとんを採用したのも福住旅館。また、11月から3月にかけては、温泉の効能とともに「出湯と果物の里」ならではの季節感を味わっていただく、地元産のリンゴを大浴場に浮かべた「リンゴ風呂」を企画。ほのかに漂うリンゴの香りが好評を博した。

料理も和食のコースだけではなく、250gの牛ステーキ、三大ガニを盛り合わせたカニ三昧、伊勢エビを丸ごと一匹使ったもの、アマエビの食べ放題などバラエティ豊か。中でも250gステーキは、女性客でもペロリと平らげてしまうという人気メニューだ。

「当館はリピーター率60パーセント。年に4、5回ご利用いただくお客様も少なくありません。小さな宿ですから、家庭的な雰囲気づくりを大切に、一度いらしたお客様に、また来たいと思っていただけるような宿でありたいと思っています」 250g牛ステーキのコース



250g牛ステーキのコース



●レストランはまなす

【メニュー例】酪恵舎モzzarellaチーズのトマトスバゲティ 1,029円/同マルゲリータピザ 980円/茶路めん羊牧場ラム肉のスープカレー 1,080円/同ラム・ステーキセット 1,890円/天丼 1,029円(すべて税込価格)
【営業時間】11:00~15:00(LOは14:30)
17:00~21:00(LOは20:30)【休】水曜、年末年始
【交通】釧路よりJR根室本線で33分、白糠駅下車、徒歩2分。釧路空港からは国道38号線を帯広方向へ車で約20分。
【住所】北海道白糠町東2条南2丁目
【電話】01547-2-2188
【HP】http://city.hokkai.or.jp/hamanasu/

◎一口メモ

「海の幸」の印象が強い白糠で、地元の新しい食材として注目されているのが新鮮なラム肉と手作りのフレッシュチーズ。茶路めん羊牧場は、羊の魅力にとりつかれた武藤浩史さんが昭和62年にスタート。チーズ工房酪恵舎は、イタリアで修業を積んだ井ノ口和良さんが平成13年にスタートさせた。情熱から生まれた新しい「故郷の味」だ。

<読者への特典>

写真掲載のメニューご注文の方はコーヒー無料



●福島県/飯坂温泉 福住旅館

収容120名/客室23室(和室 全室羽毛ふとん)/大浴場:おかも風呂、ひよっとこ風呂/清流露天風呂 摺上乃湯/宴会場:3/会議室:1/バーおかも/コーヒーショップ/売店/駐車場30台

【交通】お車で:東北自動車道飯坂ICより約5分
新幹線で:東京からJR東北新幹線で福島まで約2時間。福島から福島交通飯坂線で約25分、終点:飯坂温泉下車、徒歩2分。
【住所】福島県福島市飯坂町字若葉27TEL.024-542-4211 FAX.024-542-9325
http://www.safins.ne.jp/fukuzumi/

◎一口メモ

飯坂温泉には9つの共同浴場があるが、中でも「鱒湖湯」は、飯坂温泉のシンボリックな存在。今を去ること2000年の昔、日本武尊が東征で受けた傷をこの湯で癒したのが飯坂温泉の発祥と伝えられている。明治22年に日本最古の木造共同浴場として建築されたその建物は、平成5年に改装され、現在も連日、地元の人々や観光客で賑わっている。

<読者への特典>

本誌読者には外湯の入浴券をプレゼント。

(社)千葉県獣医師会 岩田 穎三事務局長
(昭和40年農獣医学部獣医学科卒業)

今やペットは私たちの生活のパートナーとして非常に重要な存在となっている。ペット産業の活況と並行して、様々な問題も発生してきているが、飼えなくなったペットの遺棄はその代表的な例だろう。今回は千葉県獣医師会でそれらの問題に取り組んでおられる岩田穎三先生に具体的な対策についてうかがった。

Q 近年、ペットに対する関心が非常に高まっていますが、千葉県獣医師会ならではの取り組みはありますか？

A ペット問題は私たちが重点的に取り組んでいることのひとつです。たとえば、毎年9月20日～26日の動物愛護週間に「動物フェア」を開催し、ペット相談などを行っているのですが、その期間中には、ペットの不妊手術の助成希望者を募っているんです。毎回2000件を超える応募のなかから抽選で700件以上もの助成を行っています。また盲導犬、聴導犬、介助犬などが病気になる場合の治療補助も行っています。もちろん、獣医師へのバックアップも欠かせない業務のひとつです。千葉県獣医師会には、約1000人の獣医師が登録しておりますが、そのうち350人程度が開業医です。その方々への研修や講習会なども頻繁に行い、人材の育成や情報の共有にも努めています。

Q ペット関連での新しい動きについて教えてください。

A 最近では様々なペットが家庭のなかに入ってきておりますが、それと並行して、飼えなくなったペットの遺棄も大きな問題になっています。その問題の解決法のひとつとして、私たちはマイクロチップの導入を呼びかけています。これはペットの体に極小のマイクロチップを埋め込んで管理するというシステムです。このシステムでは、飼い主の名前や住所、予防注射の接種情報などをコンピュータに登録しておけば、ペットの体をスキャナーで読み取ることによって、すぐに必要な情報を取り出すことが可能になります。このシステムが機能すれば、迷い犬・猫対策になると同時に、飼い主の自覚を促すことにもなります。ペットを不用意に捨てたりすることを未然に防ぐことができるので、動物愛護にもつながりますよね。



●プロフィール

岩田 穎三 (いわた・えいぞう)

社団法人千葉県獣医師会事務局長兼常務理事。昭和17年静岡県生まれ。実家が開業医だったこと、犬を飼っていた関係で獣医を志す。本学卒業後は千葉県の職員として38年間勤務。家畜保健所長在任時に日本初のBSE感染牛が千葉県で発見されたため、この問題に正面から取り組んだ経験もある。平成15年から千葉県獣医師会の事務局長兼常務理事に就任。年間計画作成から講演会の開催までありとあらゆる業務をこなし、多忙な日々を送っている。

千葉県獣医師会は、動物病院などの開業医、家畜関係の獣医師、県庁の職員や民間企業の専門職員などで構成された専門家の集団です。動物愛護の観点から、ペットに関する啓発活動や狂犬病予防などの公益事業にも積極的に取り組んでいます。狂犬病は現在日本では発生していない病気ですが、現在急激な勢いで増加しているペットの輸入に伴って発生する可能性も十分に考えられます。このような事実を周知徹底させ、恐ろしい病気を未然に防ぐことも私たちの大きな役割なんです。

また、千葉県は日本でも有数の畜産県でもありますから、家畜関連にも力を入れています。BSE(牛海綿状脳症)や鳥インフルエンザなど、以前の日本では見られなかった比較的新しい伝染病の問題も重要なテーマです。安全な食肉の提供は、国民的課題でもありますからね。本当にやるべきことは山ほどあって大変な仕事ですが、やりがいは充分に感じていますね。

●(社)千葉県獣医師会

【住所】千葉県千葉市中央区都町463-3
TEL: 043-232-6980 FAX: 043-232-6986

◎一口メモ

千葉県獣医師会は昭和45年に認可された社団法人。設立当時は会員数440名という規模であったが、現在では会員数は1000名を超え、全国でも有数の規模に拡大した。昨年、マンションの1室だった事務所を現在の場所に移転。「獣医師会館」として広々としたスペースを確保し、新たな出発を果たした。

ホームページも充実しているので、具体的な活動内容についてもっと詳しく知りたい方は、ぜひアクセスしていただきたい。

<http://www.cpvma.com>

われら日大ファミリー
竹内 寛さん一家有限会社高松ソリューション 常務取締役
竹内 寛 (昭和40年法学部政治経済学科卒業)
(たけうち・ひろし)

昭和17年香川県生まれ。本学在学中は「柔道部のキャプテンだった先輩に憧れて」柔道部に。持病が悪化したため途中でやめたが「いまだに悔いがある」という。本学卒業後は西日本放送に入社、東京支社に配属され、最初の5年間は当時の郵政大臣、平井太郎氏宅で住み込みの書生を務めた。その後、高松本社、大阪支社、岡山支社での勤務を経て、高松ケーブルテレビに役員として出向。退職後、平成10年より有限会社高松ソリューション常務取締役。また、高松市議会議員、かまだ基志氏の後援会事務所秘書役も務めている。

瀬戸内海に面し、四国の玄関口として知られる香川県高松市。この地で総合広告代理店、高松ソリューションを経営する竹内寛さんの一家は、三代続く日大ファミリーだ。

竹内さんの父、要さんは昭和4年に工学部(現理工学部)高等工学校土木科を卒業し、同年、内務省へ。3年後には生まれ故郷である香川県の内務部土木課に転勤となり、港湾改修やダム建設など、さまざまな事業を手掛けた。

「明治生まれの親父ですから、今の父親と違って怖かったですよ。ただ、日大を愛しているんだな、というのは子供心にも感じました。日大には技術系の偉い先生がたくさんおると誇らしげに話しているのを聞いたことがあります」

竹内さん自身は、当時大人気だったNHKのドラマ「事件記者」に憧れて昭和36年、法学部政治経済学科に入学。卒業後は西日本放送に就職して東京支社の配属となる。

「最初の5年ほどは、地元出身の大臣で、西日本放送の創設者でもある平井太郎さんの書生を務めていました。その後は営業一筋だったんですが、放送事業華やかかりし時代ですから仕事が面白くてね。親父が病気をして高松に戻るまで、大学時代を含めて20年間を東京で過ごしました」

昭和56年からは西日本放送の本社勤務となり、数度の転勤を経て高松ケーブルテレビに役員として出向。退職後は「広告、イベント何でもあり」の現在の仕事を「楽しんで」という竹内さん。3人の息子さんたちもそれぞれの

道を歩んでいる。長男の後介さんは東京芸大博士課程在籍のかたわらテナー歌手として活躍。次男の良介さんは岡山理科大卒業後、ジャーナリストを目指して勉強中。そして三男の要介さんが昨年、本学の芸術学部文芸学科に入学した。

「要介は昭和59年、父が亡くなった年に生まれたので、父の名前をもらったんです。その子が三代目の日大生になるのも何かの縁でしょう。社会に出てしみじみ感じたんですが、日大の卒業生にはタフな人が多い。何事につけ中庸で、理屈で考えるより体を動かして経験から学ぶタイプが多いと思います。要介はスポーツジャーナリスト志望なんですけど、在学中に日大の良いところをたくさん吸収してほしいですね」



学生時代の父、要さん。
厳しい父親だったという



奥様と三男の要介さん。
芸術学部所沢校舎の門前で

日本大学 生物資源科学部校友会

日本大学生物資源科学部校友会は、8万有余の校友を擁し、13学科の卒業生が1学科ごとに校友会を組織して運営展開しています。

そしてこの組織を基盤として、学部校友会が構成されて活動しています。支部は、秋田県はじめ山形県・宮城県・福島県・山梨県・高知県・大阪府・それに日本大学校友会神奈川県支部生物資源科学部部会・海外は台湾支部があり、9支部がそれぞれ活動しています。私達学部校友会の発展は、まさに日本大学校友会の発展につながります。

生物資源科学部が、文部科学省のCOEプロジェクト（国際的に通用する研究拠点づくり）に連続2年選定されています。そして着実に研究成果を内外に発信され、高度な知見を蓄積されています。こうした栄誉ある学部を支援し協力してゆくことは、私達校友会の大いなる誇りです。

永い歴史の中で、農学部・農獣医学部・生物資源科学部と学部名称が変わり、その発展とともに校友会は、これまでの先師先人達の輝かしい足跡に対して、絶えず敬意と感謝を忘れることなく勇往邁進しています。

新生日本大学校友会の改革にともない学部校友会は、各学部校友会の正統的な潮流に乗りおけることなく、総務・財務・広報の三委員会が中心となり、固い広い信念と大局的見地に立って方針を打出し、財政基盤の確立は勿論のこと、会則規約等の整備をはじめ諸問題に対する文言の整合性等を気概と情熱そして意欲をもって進めています。

また、準会員、正会員にも期待される魅力ある校友会創成を心掛け、常に校友会のこれからを忘れません。特に今回のリニューアルには、重ねて校友会活動の活性化を強力に推進したいと思います。

どうか校友会の存在感をいやが上にも高めるため、忌憚のないご意見ご要望ご支援を寄せられますようお願い申し上げます。

（日本大学生物資源科学部校友会会長 茂澤 果）



茂澤 果会長



日本大学生物資源科学部校友会懇親会



総会後の懇親会で挨拶する茂澤会長

日本大学校友会 福井県支部



大久保 雅男支部長

我が郷土福井県は、日本列島の中央に位置して古代より奈良・京都の都に近く、越前・若狭の国として栄えたところであります。

また近世では徳川幕府の親藩であり、明治維新には松平春嶽や橋本左内などの偉人、賢人を多く輩出した土地柄であります。

小泉内閣の山崎正昭官房副長官を始め、2名の県議会議員と敦賀市長や多数の市、町議会議員方は県政に活躍して居られ、県の経済界をリードする本学の卒業生の方々も多く、各方面で活動しております。

福井県の面積は狭く、人口も少ない県ではありますが人柄は穏和で海山の幸に恵まれた、誠に環境の良い全国でも最も「住み良い県」として選ばれております。

現在、福井県に在住する日本大学校友は1,400余名で正会員は75名が参加しております。校友会福井県支部発足は昭和37年頃ですが、5年頃前までは支部としての活動はなく、平成13年11月に金沢市にて日大フェアと同時開催された校友会北信越地区ブロック長会議に出席して、各県の校友会組織が充実しており、精力的に活躍されるのを見て驚きました。そして福井県支部の再編成を痛感し、まず小生の卒業した歯学部同窓会の先生方にご協力を戴き、これを拠点として各学部・各学科の卒業生に働きかけ正会員の参加を勧めて、今日ようやく校友会支部としての組織作りが出来たところであります。

これを機会にして新生した校友会総会を下記のような盛大に開催し、益々校友会福井県支部の組織強化を図りたく、準備を進めております。簡単ながら福井県支部の現状報告と福井県支部総会のご案内と致します。

日本大学校友会福井県支部総会
日時 平成17年10月22日(土)、正午より
会場 福井県福井市・福井厚生年金会館

（日本大学校友会福井県支部長 大久保 雅男）



Nihon University Alumni Association

平成17年度学部祭開催日程

サークル、ゼミなどが日頃の活動成果を発表する展示会、人気アーティストを招いてのコンサート、著名人による講演会など、イベントが盛りだくさん。久しぶりに母校の学部祭見学をかねて、キャンパスに足を運んでみてはいかがでしょうか。

(写真提供 日本大学新聞社)



イベント情報

7月以降の保健体育審議会所属各部の試合日程をお知らせします。
 詳しくは保健体育事務局(電話03-5275-8279)までお問い合わせください。



(写真提供 日本大学新聞社)



競技部	日付	大会名	場所	
陸上競技部	7/1~7/3	日本学生選手権	東京都	国立競技場
	10/10	出雲全日本大学選抜駅伝	島根県	出雲市内
	11/6	全日本大学駅伝対校選手権	愛知県~三重県	名古屋市~伊勢市
水泳部	7/1~7/3	日本選手権(競泳)	神奈川県	横浜国際プール
	9/2~9/4	日本学生選手権(競泳・飛込)	大阪府	なみはやドーム
野球部	9/3~	東都大学秋季リーグ戦	東京都	神宮球場
ボート部	10/6~10/9	全日本大学選手権大会	埼玉県	戸田オリンピックボートコース
柔道部	10/1~10/2	全日本学生体重別選手権大会	東京都	日本武道館
	11/5~11/6	全日本学生体重別団体優勝大会	兵庫県	尼崎総合体育館
剣道部	10/16	全日本学生優勝大会	東京都	日本武道館
	11/13	全日本女子学生優勝大会	愛知県	愛知県武道館
相撲部	8/16	全日本大学選抜十和田大会	青森県	十和田市相撲場
	9/18	全日本新相撲選手権大会	大阪府	堺市・大浜公園相撲場
	10/2	全国学生個人体重別選手権大会	東京都	靖国神社相撲場
	11/5~11/6	全国学生選手権大会	大阪府	堺市・大浜公園相撲場
弓道部	8/4~8/6	全日本学生選手権大会	兵庫県	グリーンアリーナ神戸
卓球部	8/4~8/7	全日本大学対抗選手権大会	神奈川県	横浜文化体育館
	10/6~10/9	全日本学生選手権大会	北海道	北海道立総合体育センター
馬術部	11/1~11/6	全日本学生三大大会	東京都	JRA馬事公苑
自転車部	8/25~8/28	全日本大学対抗選手権大会	岩手県	紫波自転車競技場
テニス部	8/5~8/14	全日本学生選手権大会	東京都	昭和の森テニスクラブ
ソフトテニス部	8/3~8/9	全日本学生対抗選手権大会	石川県	能登町テニスコート

競技部	日付	大会名	場所	
空手部	7/3	全日本学生選手権大会	東京都	日本武道館
自動車部	8/7	全日本学生ダート選手権大会	栃木県	丸和オートレース那須
	8/20~8/21	全日本学生ジムカーナ選手権大会	三重県	鈴鹿サーキット南コース
準硬式野球部	8/19~8/24	全国大学選手権大会	岡山県	マスカット球場他
体操部	8/30~9/3	全日本学生選手権大会	愛知県	パークアリーナ小牧
射撃部	11/3~11/6	全日本学生選手権大会	大阪府	能勢ライフル射撃場
重量学部	11/19~11/20	全日本大学対抗選手権大会	神奈川県	磯子スポーツセンター
ラグビー部	9/25~	関東大学リーグ戦	東京都	秩父宮ラグビー場他
ボクシング部	11/16~11/20	全日本選手権大会	兵庫県	西宮市立中央体育館
バスケットボール部	9/10~10/23	関東大学リーグ戦	東京都	代々木第2体育館他
レスリング部	8/29~9/1	全日本学生選手権大会	東京都	駒沢体育館
	11/12	全日本大学選手権大会	兵庫県	西宮市鳴尾浜体育館
サッカー部	9/13~	関東大学リーグ戦	東京都	西が丘サッカー場他
ヨット部	11/1~11/6	全日本学生選手権	神奈川県	江ノ島海岸
アメリカンフットボール部	9/10~	関東大学リーグ戦	東京都	大井第2球場他
フェンシング部	11/1~11/6	全日本大学対抗選手権大会	東京都	駒沢体育館
ゴルフ部	10/25~10/26	朝日杯争奪日本学生選手権	埼玉県	こだまゴルフクラブ
	10/27~10/28	信夫杯日本大学対抗戦	//	//
バドミントン部	10/14~10/20	全日本学生選手権大会	愛知県	愛知県体育館
ハンドボール部	11/5~11/9	全日本学生選手権大会	神奈川県	とどろきアリーナ他
応援リーダー部	9/2~9/4	ジャパンカップ2005	東京都	代々木第2体育館

校友会役員総会で新会長決まる

平成17年度の校友会役員総会が7月4日、ホテル海洋（東京都新宿区）で開催された。今年は役員改選の年にあたり、会長選考委員によって選ばれた日本大学常務理事の田中英壽校友会会長代行の新会長選任を満場一致で決めた。また各種運営委員会の答申などの報告の後、16年度の収支決算、17年度の事業計画と収支予算なども審議されそれぞれ承認された。

事業計画、新規加盟団体、平成16年度収支計算書、平成17年度収支予算書は以下のとおり。

●平成17年度事業計画について

- 1 委員会、各支部総会開催計画
- 2 正会員事業計画
 - ①校友会館設立のための資金積立(校友会会則第3条第1号「校友会館設置事業」)
 - ②校友子女入試の推進(校友会会則第3条第5号「日本大学学生等の募集支援事業」)
 - ③全国校友大会の開催(校友会会則第3条第6号「会員の福利厚生に関する事業」)
 - ④箱根駅伝の振興と推進(校友会会則第3条第10号「体育活動助成事業」)
 - ⑤その他必要とする事業(校友会会則第3条第12号「その他の必要事業」)
- 3 準会員事業計画
 - ①スポーツ優勝者表彰(校友会会則第3条第10号「体育活動助成事業」)
 - ②スポーツに対する奨励金交付(校友会会則第3条第10号「体育活動助成事業」)
 - ③全学文化事業(NU祭)支援(校友会会則第3条第10号「文化活動助成事業」)
 - ④校友会(準会員)の診療費助成(校友会会則第3条第11号「福利厚生事業」)
 - ⑤校友会独自の奨学金(校友会会則第3条第12号「準会員に対する奨学事業」)
 - ⑥校友子女入試の充実に伴う特別優待生制度の拡大(校友会会則第3条第12号「その他の必要事業」)
 - ⑦その他必要とする事業(校友会会則第3条第12号「その他の必要事業」)

以上



●校友会新規加盟団体について(平成16年度役員総会以降)

不動産・建設桜門会	日本大学合唱団桜門会
成田桜門会	社会保険労務士東京桜門会
セーリング桜門会	以上6団体
土屋組桜門会	

●診療費助成制度の指定病院を追加

準会員(学生)を対象に、日大病院等で診療を受けた場合に、診療費の一部を助成する「診療費助成制度」の指定病院が、医学部付属板橋、駿河台、練馬光が丘の3病院、歯学部付属歯科病院、松戸歯学部付属歯科病院の5病院となっていたが、国際関係学部に対応した三島地区、工学部に対応した郡山地区の病院を新たに指定病院として追加した。今回追加したのは三島の芹沢病院、郡山の寿泉堂総合病院、星総合病院の3病院。

●校友会活動資金としての寄付報告

中島正美さん(昭和52年商学部商業学科卒業)、松田恭子さん(昭和62年短期大学部文科卒業)、堀口その美さん(平成7年法学部法律学科卒業)から、「校友会活動資金として役立ててほしい」との主旨で寄付がありました。

校友会会長挨拶

日本大学校友会会長 田中英壽



(たなか・ひでとし) 昭和21年青森県生まれ。昭和44年本学経済学部経済学科卒業。平成8年より日本大学本部保健体育事務局次長を務め、11年には日本大学理事就任。その後、12年に保健体育事務局長、13年には校友会本部事務局長、日本大学校友会副会長、日本大学校友会本部長に就任。16年より校友会会長代行を務め、17年校友会会長に就任。JOC常務理事、国際相撲連盟会長、財団法人日本相撲連盟副会長。

現在、日本大学の卒業生はおよそ94万人を数えます。産業、経済、芸術、スポーツなど様々な分野で活躍しておられる校友の力を集め、また校友の子女に対しても各種の支援を行って、日本全国に広がる「日大ファミリー」をつくりたい——これが、私の掲げる大きな目標です。平成14年、日本大学や学生を支援する「自助自立」の組織として日本大学校友会が生まれ変わり、今年で4年目を迎えました。4年といえは大学の卒業年度ですから、校友会もいよいよ完成年度に入ったといえるでしょう。これまで、正会員制度の導入による組織づくりの強化、準会員である学生を支援する奨学金制度や医療費助成制度の導入など、着実に進化を遂げてきた校友会ですが、今後の具体的な実現目標として、まず挙げられるのが校友会館の建設です。かねてより、校友が一堂に会して親睦を深め、校友同士または校友と学生が有益な情報交換を行うための拠点が必要という要望は、多くの校友から寄せられておりました。この校友会館は、単なる親睦の場ではありません。異なる分野で事業を行う校友同士が出会うことによって新たなビジネスチャンスが生まれ、学生にとっては就職活動の、校友にとっては人材発掘の場となるような、まさに市場活動に直結する交流の拠点なのです。さらに、今後は政治の分野にも注力し、松下政経塾のような組織をつくって将来の日本を担う政治家を育成するというプランも視野に入れていきます。会員の皆様には今後一層のご理解、ご協力を心よりお願いいたします。

校友会本部長挨拶

日本大学校友会本部長 高松 雄行



(たかまつ・ゆうぎょう) 昭和16年東京都生まれ。昭和39年本学経済学部経済学科卒業。41年には法学部法律学科を卒業。43年より6年間にわたって日本大学藤沢高等学校教諭を務めた後、本学経済学部、工学部、本部就職部での勤務を経て平成8年校友会本部事務局事務局長、12年工学部事務局局長、14年理事に就任。17年校友会本部事務局局長ならびに校友会本部長就任。

私が校友会本部事務局事務局長を務めておりました平成8年当時と比べ、現在の校友会は組織面の整備、事業面の充実ともに隔世の観があります。現在8号を数える「KiZUNA(絆)」は私の事務長時代に創刊したのですが、当時は卒業生数すら確定しておらず、卒業生名簿作成のため、教務課を中心に各学部の課員一丸となって日夜奮闘したものでした。現在ではより合理的かつ組織的な情報収集が立派に進捗しております。また、事業計画がはっきりと会則に規定され、様々な事業が着実に具体化していること、さらに組織面では正会員・準会員の組織整備が進んで「桜縁」「絆」ともに飛躍的に発展していることなど、校友会の組織改革にいち早く着手された田中会長の慧眼には今さらながら感嘆せざるをえません。今後はさらに会長と二人三脚で、「日大ファミリー」を合言葉とし、自助自立の精神で母校日本大学の興隆、発展に寄与していきたいと考えております。具体的な目標は、①海外支部を含めた各支部・部会の一一致協力のもと地域や大学・学部深く根ざした交流の場の拡大、②正会員の充実発展ならびに準会員から正会員へのスムーズな移行手続きの確立、③校友会館建設等の諸計画の実施。会長の強力なリーダーシップのもと、わが校友会を、海外をも視野に入れた重厚で壮大な日本一、いや世界一の大組織に発展させていく所存です。校友の皆様には、後に続く後輩たち、そして母校のために何ができるかを常に考え、校友会に全面的にご協力いただくよう、心よりお願い申し上げます。



平成16年度 正会員事業費収支計算書 (平成16年4月1日から平成17年3月31日まで)

(単位：円)

収入の部				
科目	予算額	決算額	増減	備考
会費収入	72,000,000	60,808,000	11,192,000	@8,000×7,601名
雑収入	0	351,067	△ 351,067	広告料35万円、普通預金利息1,067円
その他の収入	0	0	0	
名刺交換会会費収入	3,000,000	6,100,000	△ 3,100,000	@10,000×610名
名刺交換会その他の収入	0	140,000	△ 140,000	お祝金
本年度収入合計	75,000,000	67,399,067	7,600,933	
前年度繰越金	52,308,349	52,308,349	0	
計	127,308,349	119,707,416	7,600,933	

支出の部				
科目	予算額	決算額	増減	備考
補助費	8,412,000	8,330,400	81,600	各支部、部会への還付金
事業費	15,460,000	23,768,014	△ 8,308,014	
印刷製本費	5,400,000	7,551,600	△ 2,151,600	桜縁、会員証、宛名台紙印刷代等
手数料報酬支出	180,000	178,376	1,624	
通信運搬費	3,120,000	2,414,352	705,648	桜縁郵送代
業務委託費	2,250,000	986,117	1,263,883	桜縁発送代行代
広告費	0	0	0	
名刺交換会開催費	4,000,000	12,550,869	△ 8,550,869	含オリンピック出場選手報奨金
旅費交通費	460,000	86,700	373,300	委員会調査交通費、オブザーバー交通費
補助費	50,000	0	50,000	
雑費	0	467,790	△ 467,790	郵便振替手数料
組織拡充費	1,128,000	0	1,128,000	
校友会館積立金	30,000,000	30,000,000	0	
準備金	20,000,000	0	20,000,000	校友子女入試優待生奨学金
当年度支出合計	75,000,000	62,566,204	12,433,796	
当年度収支差額	0	4,832,863	△ 4,832,863	
次年度繰越金	52,308,349	57,141,212	△ 4,832,863	

平成17年度 正会員事業費収支予算書

(単位：円)

収入の部				
科目	予算額	前年度予算額	増減	備考
会費収入	74,880,000	72,000,000	2,880,000	@8,000×9,360名
雑収入	10,000	0	10,000	貸付金利息：工4,201円
その他の収入	8,400,000	0	8,400,000	貸付返済金：理工490万円、工350万円
校友大会会費収入	7,000,000	3,000,000	4,000,000	@10,000×700名
前年度繰越金	57,141,212	52,308,349	4,832,863	
計	147,431,212	127,308,349	20,122,863	

支出の部				
科目	予算額	前年度予算額	増減	備考
補助費	17,400,000	8,412,000	8,988,000	
補助費	10,800,000	8,412,000	2,388,000	@2,400×4,500名
特別補助費	6,600,000	0	6,600,000	10万円×66支部
事業費	27,600,000	15,460,000	12,140,000	
印刷製本費	10,250,000	5,400,000	4,850,000	桜縁等@146×30,000×2回
手数料報酬支出	90,000	180,000	△ 90,000	桜縁原稿依頼
通信運搬費	5,600,000	3,120,000	2,480,000	桜縁発送代
業務委託費	1,200,000	2,250,000	△ 1,050,000	桜縁発送代行費
校友大会開催費	10,000,000	4,000,000	6,000,000	
旅費交通費	440,000	460,000	△ 20,000	総会参加費36万円、ワ'ザ'-ハ'-招聘費8万円
補助費	20,000	50,000	△ 30,000	
雑費	500,000	0	500,000	郵便振替手数料
組織拡充費	300,000	1,128,000	△ 828,000	
準備金	0	20,000,000	△ 20,000,000	
校友会館積立金	40,000,000	30,000,000	10,000,000	
次年度繰越金	61,631,212	52,308,349	9,322,863	
計	147,431,212	127,308,349	40,122,863	

※小科目内において流用することができる。



特別優待生に選ばれて

この制度は、校友子女入試による合格者のうち、特に優秀な者に対し、初年度入学手続金相当額を校友会が奨学金として給付するもの。入学試験の小論文、面接等を助産して各学部等において選考し、学部長の内申に基づき校友会で決定した。今回、特別優待生に選ばれた者のうち、3人から志望動機や今後の抱負などを聞いた。



●芸術学部デザイン学科
高橋 春風

将来、美術関係の仕事に就きたいとは思っていました。特に、日芸出身のグラフィックデザイナー秋山具義(アキヤママグギ)さんに憧れ、日本大学芸術学部に入りたいと決心しました。もちろん小さい時から絵やマンガを描くのは好きでしたし、高校時代には、美術部に所属し学園祭の看板やポスター作りに励んだり、地元の美術研究所でデッサンの練習をするなど、とにかく美術・デザインがすべてという生活でした。父も日芸の出身で「芸術学部は、他学科の人とも交流があり、将来、いろんなジャンルの人と交友関係にあった方が役に立つ」というアドバイスもあり、日芸を受験したのです。デザインといってもグラフィックだけでなく、建築やプロダクトデザインなど幅広く学んでいます。先のことも考え、やはりいろいろなことにチャレンジしてみたいと思います。大変な分、吸収できるものも多いと思います。高校時代は普通高校だったので、美術関係の話をして興味のある人は少なく、大学に入ったら、同じ趣味の人がたくさんいたので、話も合うし、また関連する自分の知らない情報を教えてもらったりして、とても有意義なキャンパスライフを過ごしています。今、広告デザインに興味があり、食料品や特に飲料水関係の面白いデザインのパッケージを集めたりしています。何でも興味のわいたことには挑戦していきたいです。先輩のみなさんからもアドバイスをいただけたらと思います。



●工学部土木工学科
日置 雄就

農獣医学部(現・生物資源科学部)農業工学科出身で、役所で土木系技術職をしている父の影響もあり、小学生の頃から近所の下水道工事や土木工事現場をよく見に行ったりして、土木という仕事にはとても興味がありました。やはり父のように将来土木系の公務員となって、台風や大雨時には川が氾濫し洪水になりやすい地元の治水事業などを手がけたいという夢を実現させるため、土木系の大学を目指しました。私の実家である関西にも多くの工科大系大学はありますが、日大工学部は公務員試験対策にも力を入れサポート体制も充実していると聞き、また父の母校でもあるので日本大学の工学部を受験しました。まだ学校に通って3か月なので、授業は慣れていないということもあり難しく、課題も多いので大変ではありますが、これが大学の専門的な学問だと実感しています。授業や課題に追われアルバイトなどやる時間的余裕もありませんが、土木の仕事は大きな事故や人命に関わる責任ある重要な仕事だと思います。一つ一つの講義や実習などを大切にしてこれから先、就職してからも活かせるように真面目に取り組んでいきたいです。今回、特別優待生に選ばれたと親から聞いて、自分がなれるとは思わなかったので、今でもビックリしています。この名誉ある優待生の名に恥じぬよう、勉学に励んでいきたいと思いますので、先輩のみなさん、これからもよろしくお願いします。



●歯学部歯学科
吉田 みづき

父は歯科医として自宅で開業しており、小さい頃から歯医者さんの仕事には興味がありました。将来、漠然と医歯系に進みたいとは思っていたのですが、高校2、3年の頃から日大の歯学部に行こうと決めて勉強に取り組みました。歯科大学は他にもたくさんありますが、やはり父の出身である日本大学の歯学部に入りたいという意思が強かったです。まだ入学して3か月ですので授業なども専門的なことは分かりませんが、ただ勉強するだけでは学生生活を有意義に過ごせないと思い、小さい頃から中学時代まで続けていましたが、受験準備のため中断していた「水泳」を復活して、歯学部の水泳部に入部しました。6月5日には医歯系大学対抗の試合にもフリーで出場しました。成績はイマイチでしたが、これからも勉強と部活の水泳を両立させていこうと思っています。水泳部は先輩後輩の仲も良く、水泳の指導はもちろんですが、勉強のことや学問以外のことも、いろいろアドバイスや相談にのってもらったりできるので、今後もずっと続けていきたいです。自分が特別優待生になったなんて、今でも実感はあまりないのですが、希望した大学に入れて感謝しています。学生生活はまだ始まったばかりで、将来のことまでまだ考えてはいませんが、ただ治療をすれば良いというのではなく、患者さんに信頼される歯科医を目指したいと思っています。これからも努力していきますので、先輩である校友のみなさん、今後ともご指導よろしくお願いします。

〔株〕黒田吉五郎商店 (くろだきちごろうしやうてん)

〔住所〕山形県天童市鎌田1-4-7
TEL 0120-31-0986 FAX 0120-54-0135

読者への特典

「桜縁7号を見た」と言っていた方は送料無料。

「安全」にこだわった山形の果実と野菜を提供

美しい空気と健康な土壌に育まれた、山形産の新鮮な果物や野菜を提供してくれる貴重なお店。創業者であるおじい様の名前を店名に掲げる黒田吉五郎商店のご主人と奥様のこだわりは「安全でおいしい」商品を提供すること。減農薬で栽培された果物や山菜はどれも驚くほど新鮮で美しい。地方発送も受け付けているので、全国どこにいても、この新鮮な「山形の恵み」を堪能できるのがうれしい限りだ。これからの季節のおすすめは、太陽の光をいっぱい浴びた桃「あかつき」と日本一おいしいと言われている白山産の「本だだちゃ豆」。読者特典もご用意しているので、この機会にぜひお試しください。



ご主人の黒田一夫さん(昭和45年商学部商業学科卒業)と奥様の典子さん。おいしいものが大好きというおふたりだが、次男の次介さんとその奥様は芸術学部音楽学科卒業、三男の芳徳さんも経済学部在学中という、まさに「日大ファミリー」でもある。



5月は天然の山菜、6月からは佐藤錦を始めとしたさくらんぼなどを扱う。夏から秋にかけては、桃やだだちゃ豆のほかにも梨やまつたけ、庄内柿、ラ・フランス、ふじりんごなど様々な旬の味をお届けする予定。

ギャラリー エフ

〔住所〕東京都台東区雷門2-19-18
TEL 03-3841-0442 FAX 03-3841-9079
http://www.gallery-ef.com

〔営業時間〕ギャラリー&カフェ 11:00~19:00/
バー 18:00~24:00(金曜は26:00まで) [休]火曜

江戸時代の土蔵を再生させた異色のアートスペース

平成9年、東京の下町・浅草に誕生したユニークなギャラリー&カフェバー。カフェの奥にある5坪ほどのギャラリー兼アートスペースは、江戸時代に建てられ、大震災や大空襲を奇跡的に生き抜いた古い土蔵を改装したもの。国内外のアーティストによる作品展示のほか、ライブ演奏やパフォーマンスも行われる。「アーティストとのコミュニケーションを通じて、この空間でしかできないイベントをやってゆきたい」と語るのは、キュレーターを務める櫻井泉さん。「もともとは祖父が亡くなった時、取り壊す予定の建物だったんです。でも、片付けているうちにこの土蔵の『慶応四年』という梁の墨書きを見た時、これは絶対に壊しちゃいけない、と」。イベントの開催予定は公式サイトで告知。こだわりのメニューが並ぶカフェとともに、今後ますます注目のスポットだ。



櫻井(旧姓・村守)泉さんは平成7年芸術学部演劇学科卒業。前年に同学科を卒業した夫の裕一郎さんとともにギャラリーを運営、これまで約70の展示を手掛けてきた。「学生時代から7年ほど舞台上で活動していたんですが、ギャラリーの仕事も土蔵を舞台にした表現活動だと思っています」。



写真上=漆造形作家の鍋島次雄さんほか、多くのアーティストの協力で再生された土蔵(文化庁登録有形文化財)。檜材の太い梁や漆塗りの床が凜とした空気を醸し出す。展示の条件は「この力強い空間に負けないパワー」と櫻井さん。本学出身の薩摩琵琶奏者、友吉鶴心さんの演奏も定期的に行っている。写真下=店舗外観。入口ドアにはステンドグラスも。

『七重八重垣頼桜』

宏光=高橋 宏光(昭和57年法学部法律学科卒業)著

今の義経ブームに反旗を翻す意欲作。義経=悲劇のヒーローの常識を破り、新たな像を描き出す痛快歴史小説。著者は国際的に評価の高い版画家。作家自身の手による、躍動感溢れる多彩な挿絵を掲載。スピード感ある文体と格調の高い挿絵、娯楽として大いに楽しめる一冊だ。

頼朝vs.義経vs.後白河法皇。三者三様の策略うずまく平安末期、戦乱の時代—謀略の渦の中心にはいつも義経がいた。頼朝をつけ狙う怨霊たちや奥州藤原氏、武蔵坊弁慶、畠山重忠などの家来たちの思惑をも飲み込んでいく壮大なる歴史のうねり。その中を駆け抜けた武将たちの物語。第4回碧天文芸大賞出版化奨励作。



(東京都千代田区神田神保町1-2-5、
碧天舎、1,000円、税別)

Book Review 書籍紹介



(東京都千代田区三番町5-19、
びあ、5,000円、税別)

『加山雄三全仕事』

小林 肇(平成元年経済学部産業経営学科卒業)他著

加山雄三の芸能生活45周年を記念し、映画・音楽・テレビ・CMなど1960年のデビューから現在までの軌跡を、本人インタビュー、著名人メッセージ、900点にも及ぶ貴重フォトを盛り込み完全収録した永久保存版。各年の活躍を紹介しているほか、全出演映画のポスターや音楽データなど資料類が充実。構成・執筆には、マスコミ業界内の加山フリークによる若大将サポーターズクラブが中心に当たっている。

加山雄三は慶応ボーイだが、日本大学との縁も深い。1961年に始まった東宝映画「若大将シリーズ」は主に商学部のキャンパスで撮影が行われ、ヒット作「エレキの若大将」では、アメリカンフットボール部・フェニックスの実技指導もあった。また、同シリーズの監督を務めた福田純、古澤憲吾の両氏は芸術学部の出身。1960年代、70年代の若大将ブームに学生時代を送ったすべての方々にお薦めする一冊だ。

次期総長に 小嶋理工学部長

次期総長を選出する総長選挙が6月22日に行われ、翌23日に開票され、新総長には理工学部長の小嶋勝衛教授が就任することが決まった。有効投票数2602票(無効44票)のうち、小嶋教授が1768票、生物資源科学部長の佐々木恵彦教授が834票をそれぞれ得票、総長選挙規則第13条第2項により小嶋教授の当選が確定した。同教授は9月1日、第11代総長に就任する。



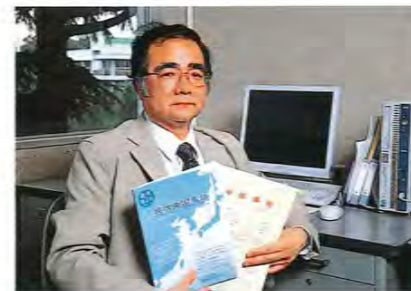
2005NU祭「NUシネマ・アワー」のご案内

今回、全学文化行事「2005NU祭」の一環として、学生・生徒・教職員・OB・OGの皆様へ映画を通して未知なる分野について興味を持っていただきたく、「NUシネマ・アワー」と題して、多くの人々に愛されている映画を厳選して下記のとおり上映いたします。入場は無料です。当日、先着順にてささやかな記念品をご用意しております。皆様のご来場を心よりお待ちしております。

- 記
- 上映作品・上映日・時間等
 - ①ニュー・シネマ・パラダイス(1989年・伊仏合作)
9/28(水) 18:00開場 18:30開演
 - ②ラスト・サムライ(2003年・米)
10/2(日) 14:00開場 14:30開演
 - 場 所 日本大学会館大講堂(市ヶ谷駅下車徒歩2分)
 - 入場料 無 料
 - 申込方法
 - ①観覧ご希望の方は、「卒業学部」「お名前」「観覧希望日」を明記の上、日本大学総合学生部学生生活課(gakusei@adm.nihon-u.ac.jp)までメールにてお申込みください。
 - ②メールでのお申込み後、大学から返信メールをお送りいたしますので、携帯電話の返信メール画面又はプリントアウトしたものを上映日当日に受付に呈示してください。

国際関係学部中国情報センター会員募集中 『現代中国事情』創刊第1号を発行

日本大学国際関係学部中国情報センターが昨年4月に発足し、情報誌として『現代中国事情』の試刊をこれまでに3回発行し、この5月に創刊第1号を発行した。同センター長の山本賢二教授は「学問研究のみではなく、社会に情報を伝え、日中貿易などにも有益な情報を発信していきたい。内容も政治的なものばかりではなく、中国や周辺地域の現場情報を伝え、中国を正しく理解してもらう役割を果たしたい」と話している。ゼミ生や大学院生、留学生などの総合的な知恵を集約し、日本の学生を啓発する目的もあるという。同センターの事業としては、情報誌『現代中国事情』の発行のほか、委託研究、翻訳・通訳事業、異文化トレーニングなどの各種講座も行っている。



センター長の山本賢二教授



『現代中国事情』創刊第1号

入会資格などは特になく、本学教職員だけでなく学生や卒業生など幅広く会員を募集しています。年会費は個人が10,000円、法人が50,000円、情報誌『現代中国事情』の定期購読のみが4,000円です。質問や入会希望者は同センターの事務局である国際関係学部研究事務課(電話055-980-0821, 0819)までお問い合わせください。

日本大学の秋期公開講座

社会人、主婦、学生、どなたでも受講できますので、お気軽にご参加ください。

【文化・歴史】

- 寄席春秋～寄席は日本人の心の故郷～(全5回)
- 上海～歴史と文化を語る～(全5回)
- 戦後60年を考える～戦争の悲惨さを忘れないために～(全5回)

【語 学】

- TOEIC®講座～500点をめざして～(全15回 ほかにテスト2回)
- TOEIC®講座～600点をめざして～(全15回 ほかにテスト2回)
- 今日から使える韓国語(全5回)
- 楽しく学ぶ中国語(全5回)

【文 学】

- 民話の世界(全5回)

【法 律】

- 子ども・法・教育～子どもに未来を与えられるか～(全5回)

【自 然】

- 星空をながめて楽しもう～星空が語るもの～(全6回)

【暮らし】

- 交通事故半減へのトライ～住民参加ができる方法論～(全5回)
- 住まいのリフォームを考える～新しいライフスタイルに合わせた住空間の再生～(全6回)
- 保険で老後に備えるコツ～こうすれば保険料を節約できる～(全5回)

【医 療】

- 知ってよかった歯の知識～ここが知りたい基本的な歯の病気と治療～(全4回)

【パソコン】

- はじめてのパソコン(全5回)
- パソコンを利用した楽しい年賀状の作り方(全5回)

【資格・ビジネス】

- 色彩検定3級講座(全14回)
- 秘書技能検定準1級・2級講座(全16回)
- マイクロソフトオフィススペシャリスト試験
- Excel対策講座(全12回)
- コーチング入門～相手も自分も活かす最良のリーダーシップ～(全6回)
- 福祉住環境コーディネーター2級講座(全12回)



はじめてのパソコン講座風景

詳しくは、パンフレットをお取り寄せください。

日本大学総合生涯学習センター

〒101-0061 東京都千代田区三崎町2-2-3
TEL 03-5275-8888 FAX 03-5275-8887
<http://www.nihon-u.ac.jp/shougai/>
JR総武線・中央線(各駅停車)「水道橋駅」下車徒歩3分
都営地下鉄三田線「水道橋駅」下車徒歩4分
都営地下鉄三田線・新宿線、東京メトロ有楽町線「神保町駅」下車徒歩5分



日本大学大学院グローバル・ビジネス研究科(2年制修士課程)

—日本大学のビジネススクールです—

—5つの領域で、社長と実践型リーダーを育成—

- エグゼクティブ・マネジャー・コース
- 中小企業経営コース
- ベンチャー・ビジネス・コース
- ヘルス&ソーシャル・ケア・コース
- テクノロジー・マネジメント・コース



- 4月と9月、年2回の入学時期
- 働きながら学ぶことを考慮し、昼間に加えて夜間、土曜日の講義も開講。
- 20歳台から50歳台まで、あらゆる分野の企業における中堅層から管理者層まで幅広い年齢層が在籍しています(平均年齢は約35歳)
- 日本大学卒業生は入学金免除
- 交通案内 JR総武線・中央線、東京メトロ有楽町線、南北線、都営地下鉄新宿線「市ヶ谷」下車徒歩2分
- 所在地/問い合わせ先 〒102-8275 千代田区九段南4-8-24 日本大学会館内 日本大学大学院事務課 電話03-5275-8277 Fax03-5275-8327 1年制の昼間開講制集中プログラムもあります。

詳しくは <http://www.gsb.nihon-u.ac.jp>

平成18年度 4月期入学試験	2年制(昼夜開講制)
募集人員	25名
受験資格	大学卒業生で3年以上の 実務経験を有する者
オープンデー	9月17日(土)模擬講義・面談
願書受付	11月1日(火)～11月11日(金)
試験日	11月19日(土)
合格発表日	11月29日(火)
入学手続期間	11月29日(火)～12月13日(火)

お知らせ・掲示板

このコーナーは皆さんからの手紙や電話でのご意見、ご質問を紹介します。

他にも写真、詩、短歌、エッセイなどの作品や、
本誌で紹介したお店を訪ねた感想なども
募集していますので、『桜縁』係までお寄せください。

法律学校が前身である本学が、他
大学に比べて政治の面で非常に弱
いと思います。実力や校友数などの
動員力では負けたいと思います。校
友同士のネットワークが重要ではな
いでしょうか。「桜縁」を通じて校友の
ますますの活躍を期待しています。
(小川和幸・昭和51年理工学部建築
学科卒業/北海道札幌市在住)

校友の絆を大切に作る方針には
大賛成です。入学するのは易くても
卒業するのは難しい大学(実力のあ
る学生を育てる)になることを望み
ます。初代学長である金子堅太郎先

生の教えに従い、日本大学は国の名
を負っている大学だからこそ、日本
を大事に発展させる教育が必要だ
と考えます。

(赤見坂義人・昭和22年農学部校
友/京都府京都市在住)

卒業して半世紀近くになりますが、
母校の情報は大変興味深く、会報誌
「桜縁」や大学で発行する「K i Z U
N A <絆>」も楽しみにしています。内
容のさらなる充実とますますの発展
を祈っています。

(三雲保子・昭和32年芸術学部写真
学科卒業/東京都杉並区在住)

校友会会報誌「桜縁」も発行から3年が経ちました。創刊号の読者アンケートに
お応えし、ページ数を増やしたり、文字を大きくするなどの工夫や、新コーナーを
設けるなどの編集を続けてきました。より良い誌面にするために、掲載している
コーナーの評価や今後の誌面への要望などを、再度みなさんからお聞きたく、
同封のアンケートはがきにご協力をお願いします。

○インフォメーション

◎本誌への情報提供、ご意見、お問い合わせは…
この会報は1人でも多くの校友の皆さんを紹介し、校
友の皆さん同士のコミュニケーション(縁)を深めてい
ただきたいと思っています。お店やお宿を経営してい
る校友に限らず、ユニークな先輩や後輩がいるとか、
自分を紹介してほしいなど、自薦他薦を問いませんの
で、事務局までお知らせください。

◎住所・勤務先がお変わりになられたら…
住所、勤務先等に変更がございましたら、必ず事務局
までお知らせください。
電話、FAX、メールいずれの方法でも結構です。

◎会員証を紛失されたら…
会員証を紛失された際は事務局までご連絡ください。
再発行させていただきます。

◎新規会員を紹介したい…
新規会員をご紹介くださる方は、事務局までご連絡く
ださい。資料を送付させていただきます。

- 1 封筒、ハガキで
〒102-8275
東京都千代田区九段南4-8-24
日本大学校友会本部事務局校友課「桜縁」係
- 2 電話、ファクシミリで
TEL 03(5275)9300
FAX 03(5275)8330
- 3 電子メールで
E-mail : koyu@adm.nihon-u.ac.jp

桜縁 No.7/2005.7 発行 編集・発行 日本大学校友会
〒102-8275 東京都千代田区九段南4-8-24
TEL 03(5275)9300 FAX 03(5275)8330

広報委員会

委員長：今村 忠雄 副委員長：猿渡 光
委員：竹井 哲也 中村 克夫 渡邊 和子 穂積 修一 石井 宏 紙本 勲
萩原 正芳 横須賀 靖 齋藤 直樹 呉屋 正盛 中島 正博 野澤 達也
鈴木 彰一

編集後記

広報委員会・今村忠雄

今回の地方アナウンサー特集はいかがでしたでしょうか。掲載
した6人の他にも、北海道から沖縄までの全国各地の放送局に多
くの校友アナウンサーが、地域の顔として活躍しています。自分
の先輩もしくは後輩であるという立場から彼らを見直すと、同じ
テレビを見るのでも違って見えるのではないのでしょうか。今後の
さらなる活躍を祈っています。



まずは電話でお申し込みを

日本大学文理学部 心理臨床センターをご利用ください



心理臨床センターは日本大学文理学部百周年記念館の中に
あり、地域に開かれた活動を行っています。小学生から上は70
代の方まで、近所に限らず、遠方からも、さまざまな心の悩みを
抱えている方が相談に訪れています。開所日は、月・火・水・土
曜日となっています。センターには、相談に使う6つの部屋を完
備。相談内容に合わせて、専門の臨床心理士が適切に対応し
ています。民間の施設では50分で10,000円ほどかかる心理カ
ウンセリング料金も、50分2,000円と格安になっています。校友
のみなさんも是非ご利用ください。

★一人で悩まず相談しよう!★

育児の悩み 子どもの悩み 対人関係の悩み
ストレス ご自身の悩み 不安・緊張・ゆううつ
高齢化にともなう悩み 家族の悩み など…



プレイルームも完備



箱庭療法専用ルーム

カウンセリングルーム

日本大学文理学部心理臨床センター

〒156-8550 東京都世田谷区桜上水4-2-50

TEL&FAX 03(5317)9754(直通)

*相談は全て予約制です。事前に電話でご予約ください。

◎メールアドレス cpcenter@chs.nihon-u.ac.jp

◎ホームページ http://www.psych.chs.nihon-u.ac.jp/~center/

案内図

